

太平洋戦争 開戦過程の研究

安井 淳著 A5判上製本 536頁 定価(本体 6,800円+税) ISBN978-4-8295-0608-0

安井 淳

(やすい あつし)
1942年関東州大連市生れ。
1965年京都大学工学部数理工学科卒業後、自動車メーカーに就職。社命にて1年間東京大学生産技術研究所研究生(機械力学専攻)となる。2002年から横浜市立大学国際文化学部および大学院の科目履修生、2008年國學院大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了、2011年日本大学大学院文学研究科日本史専攻博士後期課程満期退学。著書『対米戦争開戦と官僚』(芙蓉書房出版)。

陸軍を中心に、海軍・外務省・宮中などが
対米戦争を決意するまでの経緯と
政策の決定、執行の詳細を、
徹底的な資料分析によって明らかにした論考

■第一部 太平洋戦争開戦とハル・ノート

I 序論

1. 太平洋戦争開戦過程とハル・ノート開戦説／2. ハル・ノート開戦説の意義／3. 旧軍将校の証言とハル・ノート開戦説への疑問

II 東郷外相就任の経緯と外務省内の様相

1. 東郷外相就任の経緯／2. 当時の外務省内の様相

III 「国策再検討」

1. 「白紙還元」の御説／2. 海軍の開戦決意／3. 「国策再検討」／4. 対米交渉案の決定／5. 新「帝国国策遂行要領」の成立

IV 新「帝国国策遂行要領」の執行過程——対米交渉以外

1. 陸海軍の作戦準備の完整／2. 大蔵省の政戦諸般の準備／3. 新「帝国国策遂行要領」にもとづく対米交渉以外の外交措置

V 新「帝国国策遂行要領」の執行過程——対米外交

1. 新「帝国国策遂行要領」にもとづく対米交渉執行過程／2. 新「帝国遂行要領」規定外の外交措置

VI 開戦の決定とハル・ノートの接受

1. 米国の乙案拒絶とハル・ノートの手交／2. ハル・ノート接受前後の連絡会議の様相／3. ハル・ノートにかかわる諸問題／4. 外務省の先輩たちの証言

VII ハル・ノートのその後

1. 駐米大使館の様相／2. ハル・ノートと国論統一／3. 手を加えられたハル・ノート／4. 戦時中と敗戦後のハル・ノート開戦説

VIII 残された課題

1. 小括／2. ハル・ノート開戦説否認の意義／3. 開戦過程における新たな疑問

■第二部 破綻した陸軍の対ソ戦略と「関特演」

I 満洲事変が招来したもの

1. 満洲事変が招来したソ満国境の新事態／2. ソ満国境の新事態に関する先行研究／3. ソ満国境の新事態に関する陸軍の基本認識／4. ソ満国境の新事態に関する陸軍の対処方針

II 日中戦争の勃発から欧州新局面の到来まで

1. 日中戦争の勃発と軍備充実計画の修正／2. 欧州新局面の到来と陸軍の戦略大転換

III 独ソ開戦後の対ソ戦略

1. 独ソ開戦に入る前に／2. 独ソ開戦のもたらした波紋

IV 北進論と「関特演」の発令

1. 北進の是非／2. 「関特演」の発令

V 北進断念の意思表示と「関特演」のその後

1. 北進断念の意思表示／2. 「関特演」・対ソ軍備充実・満洲国建設／3. 「関特演」のその後

■第三部 太平洋戦争開戦決意と陸海軍の相克

I 南方への方向転換

1. 「時局処理要綱」とその揺動／2. 対南方戦略の揺動／3. 太平洋戦争と自給圏の建設

II 国力判断と対米不戦の国策

1. 陸軍の国力判断／2. 参謀本部内の国策策定機関と「対南方施策要綱」の策定／3. 「対南方施策要綱」と状況的要素

III 南部仏印進駐

1. 南部仏印進駐にかかわる諸問題／2. 南部仏印進駐への道／3. 南部仏印進駐の決定過程

IV 全面禁輸を迎えて

1. 全面禁輸の衝撃／2. 永野総長の帷幄上奏とその波紋

V 日米首脳会談構想の挫折

1. 近衛首相の覚悟／2. 軍部の対米不信と焦慮／3. 米国の対日不信と首脳会談構想の挫折

VI 陸海軍の相克

1. 近衛内閣末期の陸海軍の相克／2. 東條新内閣下における陸海軍の相克

VII 太平洋戦争開戦決意

1. 軍部の対米戦構想／2. 「国策再検討」における勝算の検討／3. せめぎ合いの果てに／4. 軍人たちの戦後

11月下旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 11月14日(木) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
太平洋戦争開戦過程の研究		
11月新刊 本体 6,800円	部	